

with/after COVID-19における 医療の国際展開の在り方について

2020年11月2日 グローバルヘルス合同大会 2020 大阪

一般社団法人Medical Excellence JAPAN (MEJ)

発表者 秋山 稔

COI（利益相反）開示

演題発表内容に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はありません。

日本の国際医療展開 – ミッションステートメント

【政府目標】

『健康・医療関連産業の
国際展開による展開国
での市場創出』



一般社団法人Medical Excellence JAPAN (MEJ) は
日本及び各国の政府、医療界、産業界と相互協力のもと、
医療サービス・医療技術を通して、
世界の人々の健康、福祉及び経済の発展に貢献します

世界の医療への貢献

MEJは、各国・各地域の
特性を踏まえた医療サービス・
医療技術を通して、世界の医療
の発展と充実に貢献します

日本の医療への貢献

MEJは、日本の医療の
国際的な対応能力向上を
支援することで、日本医療の
発展に貢献します

経済発展への貢献

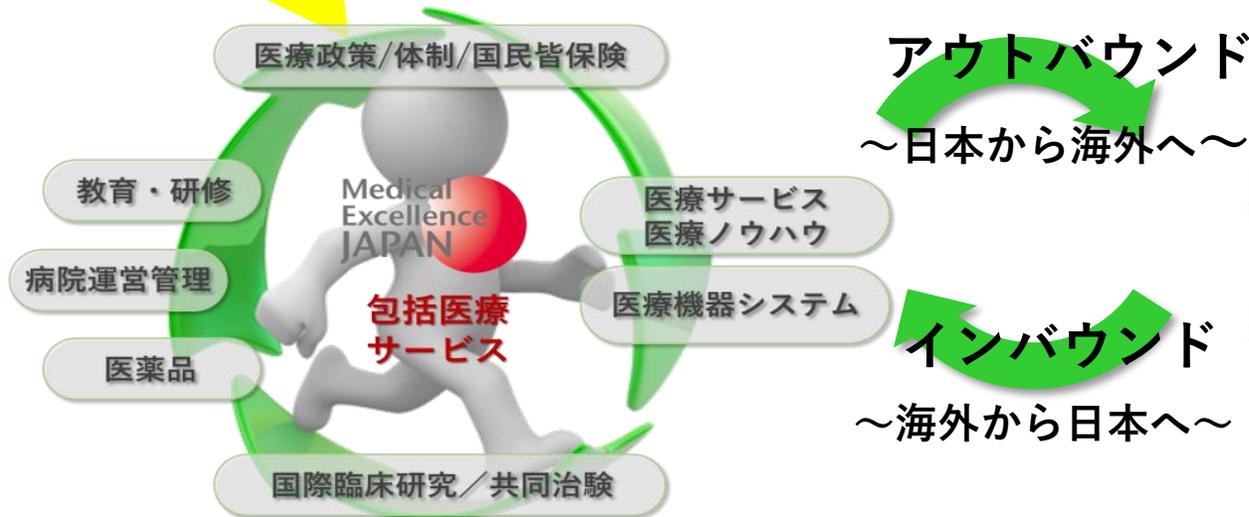
MEJは、医療機関と
医療関連産業の成長を
支援し、日本及び世界の
経済発展に貢献します

MEJが目指す医療の国際展開（1）

アウトバウンドとインバウンドのシナジーで効果的な国際展開

- 相手国の医療ニーズを踏まえ、日本の医療を、医療機器、教育・研修、医療制度等とパッケージで提供し、合理的に相手国の医療水準向上に貢献する
- 現地での対応が難しい医療は、日本で受診する機会を提供する

日本の医療産業の活性化



世界医療水準の向上
日本の医療の拡大
世界成長市場の獲得

世界の人々へ
合理的な医療を

MEJが目指す医療の国際展開（2）

将来的に事業化することを目指して国際展開する医療機関・医師・企業に様々な側面から協力・支援し、事業を行い易くするプラットフォームを提供します



一団体では困難でも、MEJが支援、協力することで、事業の推進が可能

- 日本の医療の国際展開にかかる情報を一元的に把握し、進出機会を提供
- 健康・医療分野における日本政府の成長戦略に積極的に寄与

インバウンド事業 (before COVID-19)

Japan International Hospitals (JIH) 推奨事業

- ① 北斗病院
- ② 総合南東北病院
- ③ 筑波大学附属病院
- ④ 千葉大学医学部附属病院
- ⑤ 亀田メディカルセンター
- ⑥ 国立がん研究センター東病院
- ⑦ 日本医科大学千葉北総病院
- ⑧ 国立国際医療研究センター病院
- ⑨ 国際医療福祉大学三田病院
- ⑩ 順天堂大学医学部附属順天堂医院
- ⑪ 慶應義塾大学病院
- ⑫ 国立がん研究センター中央病院
- ⑬ NTT東日本関東病院
- ⑭ 榊原記念病院
- ⑮ 山王病院
- ⑯ 聖路加国際病院
- ⑰ 国立成育医療研究センター病院
- ⑱ 東京大学医学部附属病院
- ⑲ 東京都済生会中央病院
- ⑳ 東京高輪病院
- ㉑ 虎の門病院
- ㉒ 相澤病院
- ㉓ 総合病院聖隷浜松病院
- ㉔ 藤田医科大学病院
- ㉕ 大阪大学医学部附属病院



- ㉖ 兵庫県立粒子線医療センター
- ㉗ 福岡記念病院
- ㉘ 福岡山王病院
- ㉙ 福岡県済生会福岡総合病院
- ㉚ 長崎大学病院
- ㉛ 米盛病院
- ㉜ 北海道大野記念病院
- ㉝ 山形大学医学部附属病院
- ㉞ AOI国際病院
- ㉟ 津山中央病院
- ㊱ 岡山旭東病院
- ㊲ 福山医療センター
- ㊳ 古賀病院21
- ㊴ 新古賀病院
- ㊵ 埼玉医科大学国際医療センター
- ㊶ 済生会横浜市東部病院
- ㊷ 木沢記念病院
- ㊸ 金沢医科大学病院
- ㊹ 吹田徳洲会病院
- ㊺ 東邦大学医療センター大森病院
- ㊻ 吉田病院
- ㊼ 旭川医科大学病院
- ㊽ 名古屋共立病院
- ㊾ 日本生命病院
- ㊿ 大阪国際がんセンター

 JAPAN Hospital Search
for International Patients
<http://www.japanhospitalsearch.org/>

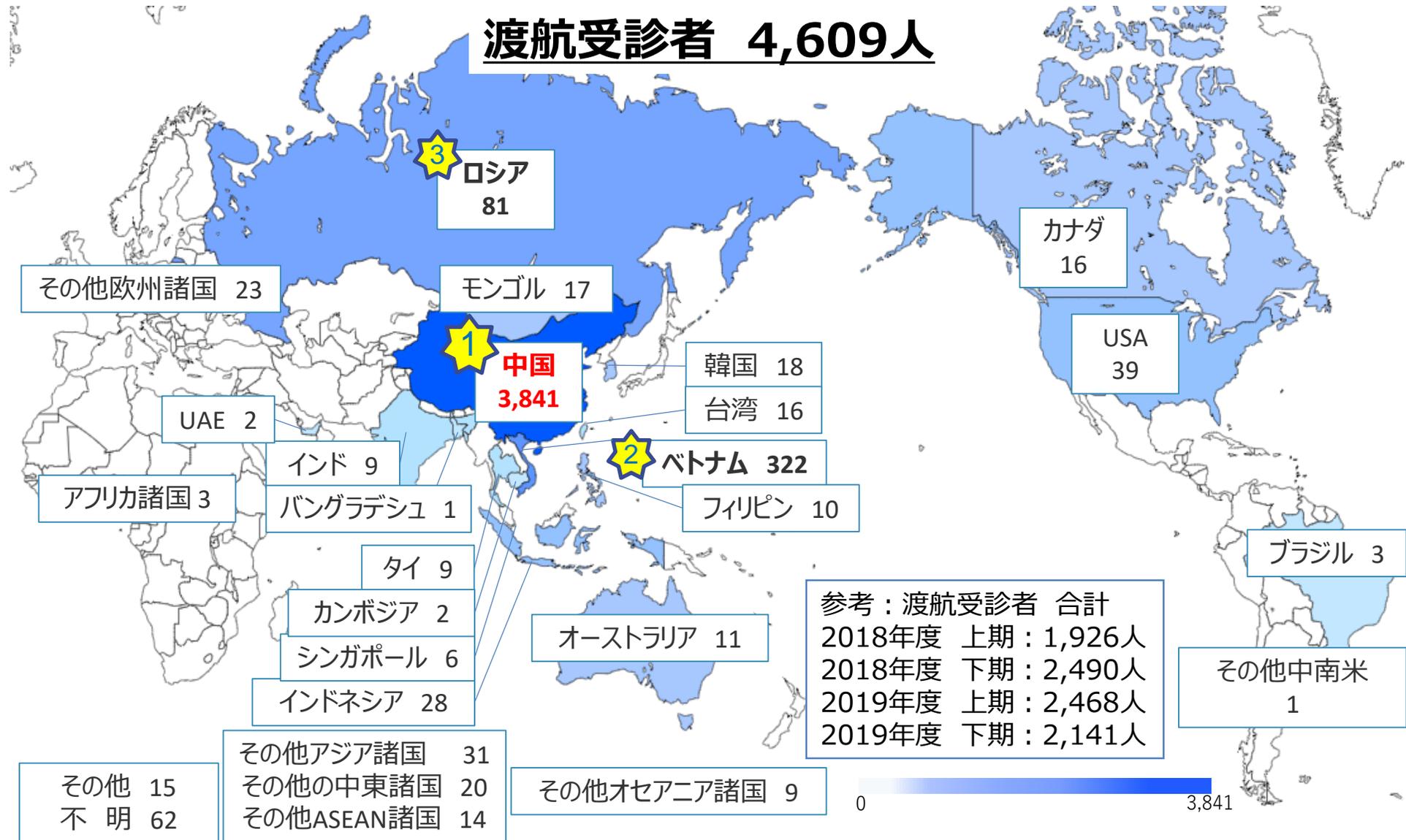


(2020年6月12日現在)

JIH渡航受診者受入実績 国籍別 渡航受診者数

2019年3月~2020年4月：45病院

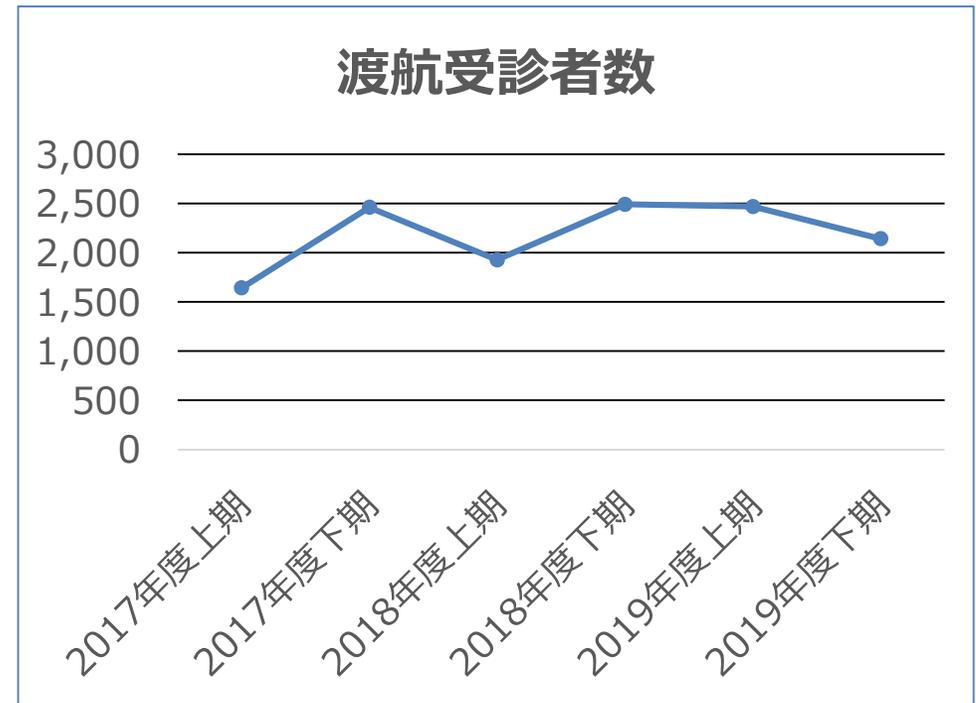
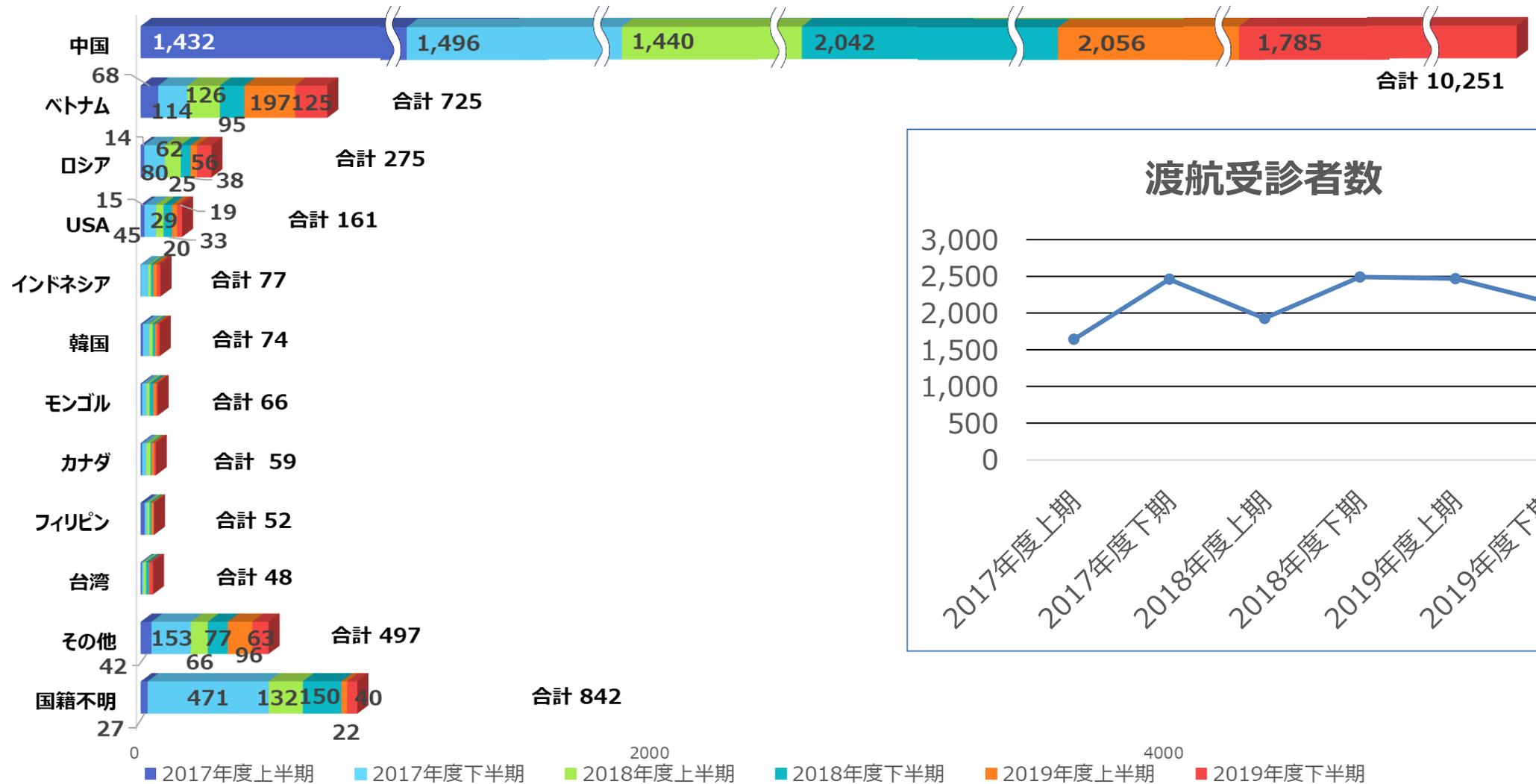
渡航受診者 4,609人



参考：渡航受診者 合計
 2018年度 上期：1,926人
 2018年度 下期：2,490人
 2019年度 上期：2,468人
 2019年度 下期：2,141人



渡航受診者の延べ人数上位10か国 (2017年4月～2020年3月) 最大47病院分



with/after COVID-19

- (6月以降) 治療・フォローアップ目的の渡航受診は
ごく少数ながら、再開。
- セカンドオピニオン (遠隔) の依頼・ニーズは
伸長している。
- COVID-19の感染拡大による
余波に関する アンケート調査 を実施。

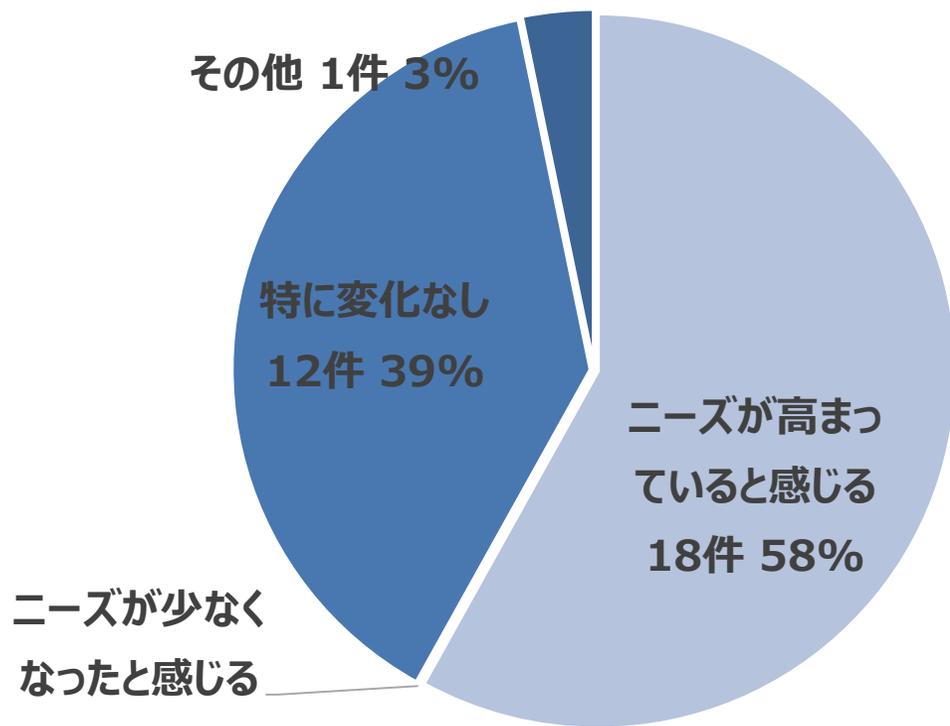
※2020年8~9月実施 (回答数28/74件)



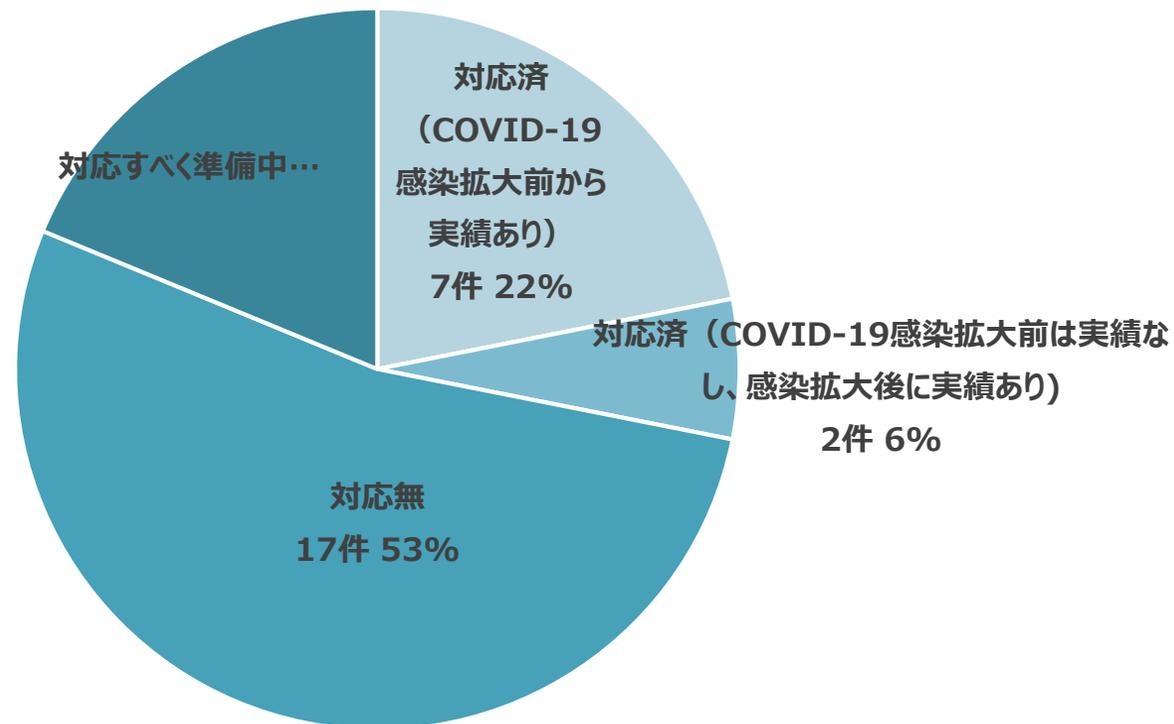
アンケートから得られた現状における医療インバウンドの課題

- ✓オンラインを利用した、セカンドオピニオンへの対応が急務
- ✓受入れ可否判断時の医療情報のやり取り、および**遠隔診断のICT化の推進**が必要
- ✓感染症に配慮した新たな医療インバウンドの形態を多角的に研究し、ガイドラインを策定する必要あり

オンラインによるセカンドオピニオン・診療相談に対するニーズの変化



オンラインセカンドオピニオン・診療相談の対応有無



アウトバウンド事業 (before COVID-19)

官民ミッション

産・官・学・医からなるミッション団を派遣し、相手国政府及び医療機関幹部等とのネットワークを作り、日本の医療サービスの認知度向上、海外拠点の創出を図る（経済産業省事業）

2012年度以降、16か国にミッション派遣、6か国を日本へ招聘



アジア（がん・生活習慣病の早期発見・治療、救急医療、医療ICTなど）

- ・インドネシア（2012、2013、2014、2018）
- ・カザフスタン（2013）
- ・フィリピン（2015、2016）
- ・バーレーン・クウェート・カタール（2013）
- ・中国（2013）
- ・サウジアラビア（2016招へい、2017）
- ・ベトナム（2013、2014、2015、2018招へい）
- ・ロシア（2013、2014）
- ・タイ（2017、2019）
- ・インド（2013、2014）
- ・トルコ（2013）

アフリカ（日本医療の認知度向上）

- ・ケニア・タンザニア・南アフリカ（2019招へい）

中南米（薬事同等性を踏まえた医療機材PR）

- ・メキシコ（2019）

メキシコ官民ミッション(2019) 日系人医療セミナー 日本医師会と共に参加

参加企業による製品プレゼン



アフリカ3カ国招へい 官民ミッション(2019) シンポジウムでの集合写真

政策対話／ラウンドテーブルの様子



医療研修支援 (AIIMS)

ERIA*委託事業の一環として、日本救急医学会、日本外傷学会、全インド医科大学 (AIIMS) の医師の交流を通じて、インド人医師の育成を支援する事業を実施。

第1期事業としてインドに研修渡航した日本人医師は、日本ではあまり経験できない外傷 (刺創、銃創、爆傷等)を経験することができた。

第2期事業として、インドでの体系的な救急医師育成プログラムの確立を目指す事業を実施予定。

第2期推進のために、日本救急医学会、日本外傷学会、MEJで構成する“ステアリングコミティー”および実行体制の整備と再配置を行い、プロジェクトの管理と情報共有を行っている。



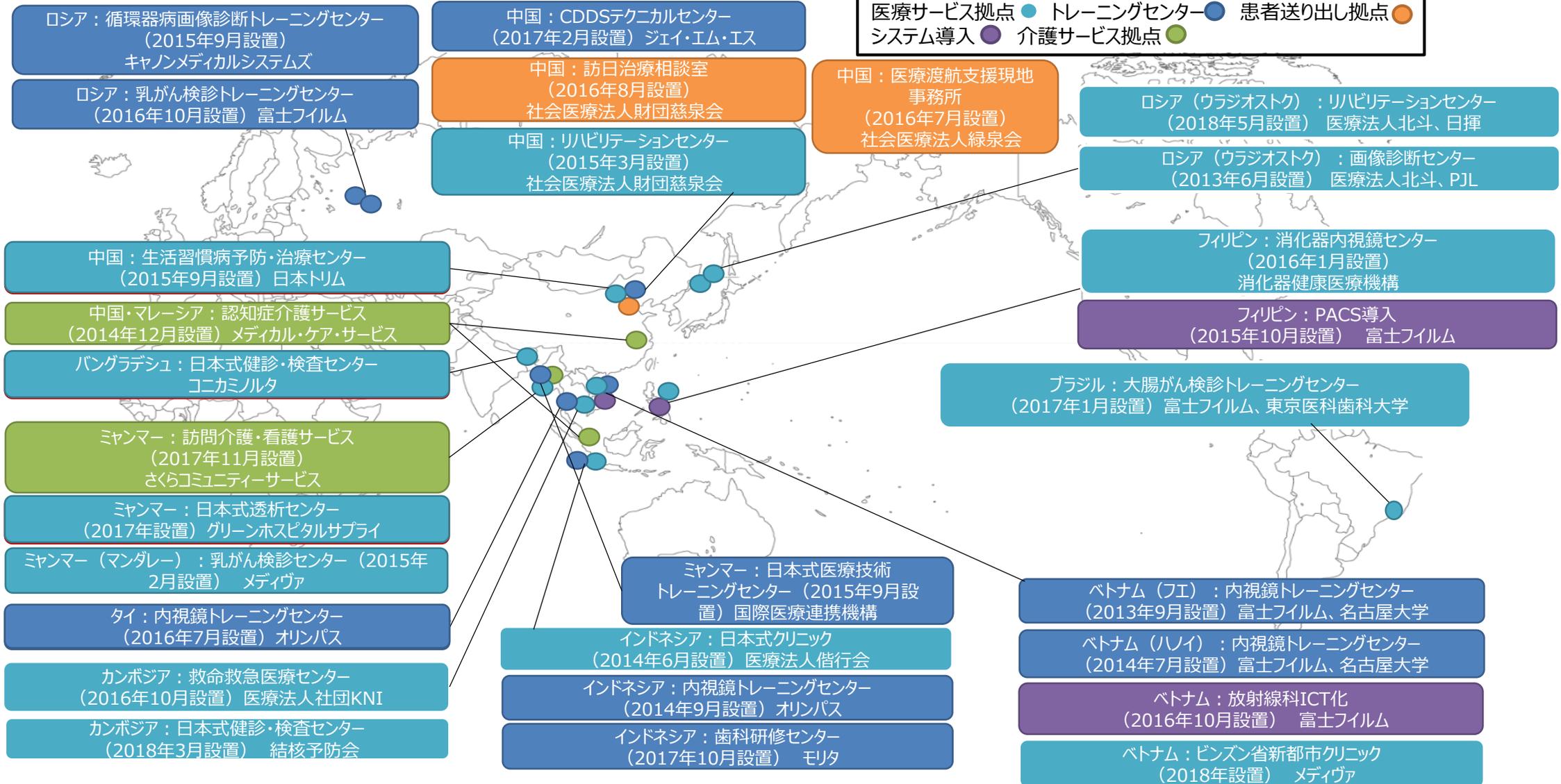
インド派遣・現地研修
(Operation, Clinical
round)の様子

※Economic Research Institute for ASEAN and East Asia (ERIA) とは、東アジア経済統合推進を目的とした政策研究・提言を行う国際機関

拠点支援（経済産業省 補助事業）

2019年9月時点

医療サービス拠点 ● トレーニングセンター ● 患者送り出し拠点 ●
システム導入 ● 介護サービス拠点 ●



アウトバウンド事業 (with/after COVID-19)

- ◆ 国境を越えた活動
- ◆ 対面の活動
- ◆ 会場に集客をして行うような活動等



- 展示会出展等のプロモーション活動（対象国：ベトナム・中国）
⇒ ウェブを利用した活動にシフト
- COVID-19に関連したウェブセミナー／イベント（Webinar）の実施

日中医療連携 COVID-19に関する意見交換会

アリババグループ創業者のジャック・マー氏が立ち上げたCOVID-19に関する知識や経験等を共有できるプラットフォームに参加する浙江大学医学院附属第一医院と、COVID-19に関するオンライン意見交換会を実施



【発表者（発表順）】

- 梁 廷波 浙江大学医学部附属第一医院 共産党書記、教授
- 行岡哲男（モデレーター）MEJ理事
- 井上貴昭 筑波大学 医学医療系 教授
- 田中 裕 順天堂大学 医学部 教授
- 熊川靖章 順天堂大学医学部附属浦安病院 救急診療科 医師

JIH推奨病院およびMEJフォーラム会員医療機関の医師、職員の方々およびMEJ企業会員から70名ほどの参加本会をネット中継したところ、日中両国から最終的に2,400を超えるアクセスあり

「第1回 中央アジアと日本を繋ぐ

専門家会議/Central Asia –Japan

Expert meeting on COVID-19」を主催

MEJは、政府、医療界、医学界をはじめとする各アカデミー、医療産業界等と相互協力のもと、国際医療協力を推進する組織です。また、日本の優れた医療技術、医療機器、人材育成、その他の医療サービス等を必要とする国々の要請に応える形で、必要な事業展開のプラットフォームを提供しています。その活動の一環として、今般は、中央アジア諸国とのCOVID-19に関する意見交換会（全3回）を企画いたしました。

Central Asia - Japan Expert meeting on COVID-19

Date: Tuesday, 1st September 2020

Time: 4 p.m. – 6 p.m. (JST)

主催：一般社団法人 Medical Excellence JAPAN

後援：厚生労働省

独立行政法人 国際協力機構

東京女子医科大学医学部 国際環境・熱帯医学講座

協力：外務省

プログラム・参加者一覧

日時：9月1日（火）4:00-6:00 p.m.

発表者：独立行政法人 国立国際医療研究センター病院 国際感染症センター 理事 長 特任 補 佐

国際感染症センター 長 DCC 科 長 感染症 内科 医 長 併 任 大 曲 貴 夫 先生

厚生労働省 総務課 国際医療展開推進室 室長 鈴木 貴士 様

東京女子医科大学医学部 国際環境・熱帯医学講座 杉下 智彦 先生

MEJ 理事 長 近藤 達也

MEJ 理事 秋山 稔

-Chairman of the Committee for Quality Control and Safety of Goods and Services of the Ministry of Health of Kazakhstan Mr. Timur SULTANGAZIEV

-Leading Specialist on Pharmaceutical Policy of the Ministry of Health of the Kyrgyz Republic Prof. Aigul DZHAKUBEKOVA

-Senior specialist of Department of International Cooperation of the Ministry of Health and Social Protection of the Republic of Tajikistan Mr. Manuchehr SHAMSULLOZOD

-Deputy Chief of the Public Health and Nutrition Center of the State Sanitation and Disease Control Service of the Ministry of Health and Medical Industry of Turkmenistan Dr. Arslan ORAZOV

発表者：-Head International Department of the Ministry of Health of the Republic of Uzbekistan Mr. Ayubkhon KAYUMOV

参加者：在日カザフスタン共和国大使館

在日キルギス共和国大使館

駐日タジキスタン共和国大使館

在日トルクメニスタン共和国大使館

駐日ウズベキスタン共和国大使館

-M. Aikimbayev's National Scientific Center of Especially Dangerous Infections

-National research oncology center

-A.N. Syzganov National Scientific Center of Surgery

-Not-for-profit joint stock company Karaganda Medical University

-Kazakh scientific center of dermatology and infectious diseases

外務省 欧州局 中央アジア・コーカサス室

厚生労働省 総務課 国際医療展開推進室

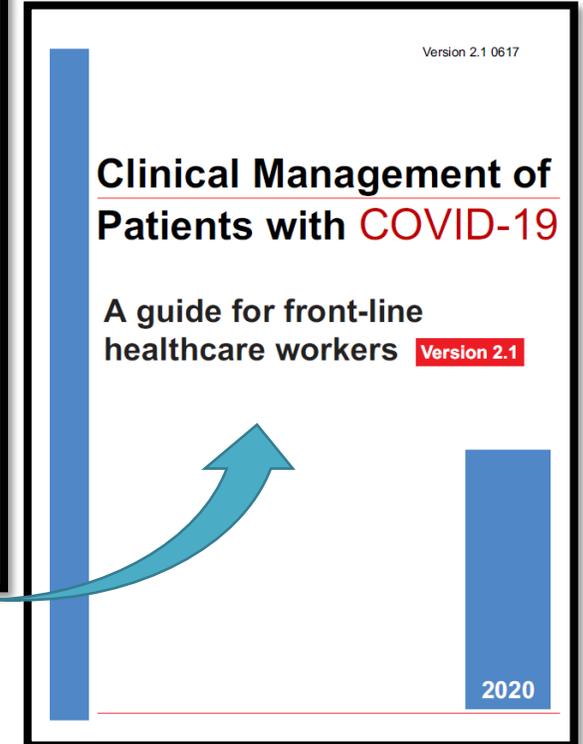
経済産業省 通商政策局 ロシア・中央アジア・コーカサス室

JICA 本部及び現地事務所

MEJ 企業会員・MEJ フォーラム 会員

Introduction of
“Clinical Management of Patients with COVID-19”
A guide for front-line healthcare workers version 2.1.

Medical Excellence JAPAN
Executive Director
Minoru Akiyama M.D.



※現在、第3版まで発行

- 診療の手引き検討委員会が中心となり作成され、厚生労働省ホームページに公開されているガイドライン。
- 患者数の増加を初めて経験するような地域の医療従事者においても役立つよう、最新の知見・情報を簡潔に提供することが目指されている。
- 中央アジアとの専門家会議では、**現場の医療従事者が明日からでも活用できるような「実践的」な知見が共有されること**に大きな反響があった。
- 日本に求められていることは、**確かな医療技術とデータ、最新の科学に裏打ちされた経験の共有、そしてそれらに付随するサービスや技術の提供**である。

with/after COVID-19時代の気づき

～ウェブを利用した国際会議／交流の場合～

顕在化してきた課題

- 音切れや接続速度等のインフラ問題
- 海外との時差対応問題
- 欧米や新興国がすでに“ウェビナー疲れ”
- “アクション”を見せられないため、ウェブ会議やイベントのトークショー化（形骸化）が進む

解決手段・・・？

- インフラの増強
- ウェブ会議での見せ方を研究
- これまで以上に、事前調整や根回し（コミュニケーション）を行い、コンテンツ／ストーリーを練る重要性（⇒出席者の興味を引く、集中力を持続させる）
- 政府のイニシアティブや国際イベント等と接続／連動性を持ち、ステークホルダーが一体となって取組むことの必要性（⇒発信メッセージの強化）

New Normal ?

COVID-19

参考資料

Medical Excellence JAPAN ・ 沿革

- 2011年度**
 - 経済産業省の支援を受け、**一般社団法人Medical Excellence JAPAN（以下MEJ）** を設立
 - 外国人患者の受入基盤整備（**インバウンド**）を中心に、**広報活動**を開始
 - 内閣官房、経済産業省から医療の国際展開に関する事業を受託
- 2013年度**
 - 日本再興戦略の1つに「**日本医療の国際展開**」が掲げられ、日本政府の指示の元、**新生MEJ**が発足
- 2014年度**
 - 医療機器メーカー等が企業会員に加入し、事業範囲を医療の輸出（**アウトバウンド**）まで拡充
 - 経済産業省から『医療国際展開加速化促進事業』を受託
 - **医療機関・医療関連団体が交流・連携**を図る場として『**MEJフォーラム**』を発足
- 2015年度**
 - **認証医療渡航支援企業（AMTAC）**の認証を開始
- 2016年度**
 - **ジャパン インターナショナル ホスピタルズ（JIH）**としての推奨を開始し、専用WEBサイトに「JAPAN Hospital Search（JHS）」を公開し、JIH推奨病院を掲載（当初28病院）
- 2019年度**
 - **日本の医療の強み調査**を実施



日本の国際医療展開 – ミッションステートメント

【政府目標】

『健康・医療関連産業の
国際展開による展開国
での市場創出』



一般社団法人Medical Excellence JAPAN (MEJ) は
日本及び各国の政府、医療界、産業界と相互協力のもと、
医療サービス・医療技術を通して、
世界の人々の健康、福祉及び経済の発展に貢献します

世界の医療への貢献

MEJは、各国・各地域の
特性を踏まえた医療サービス・
医療技術を通して、世界の医療
の発展と充実に貢献します

日本の医療への貢献

MEJは、日本の医療の
国際的な対応能力向上を
支援することで、日本医療の
発展に貢献します

経済発展への貢献

MEJは、医療機関と
医療関連産業の成長を
支援し、日本及び世界の
経済発展に貢献します

- MEJは、日本が**世界三大医療国**であることの自負を持ち、日本の**先進性のある、実績を踏まえた、スピード感のある、患者中心の合理的医療** (Rational Medicine Initiative)を関係各国に普及する。
- **レギュラトリーサイエンス**の手法を用いることで、「**患者中心の合理的医療**」を明確化し、関係各国と医療の質を向上する「**絶対的価値観**」として**共通言語化**することを目指す。
- **医療を通じて、互恵的な新しい安全保障の国際秩序**を作る。

① 「患者中心の合理的医療」

その啓発を進め、国境を越えて世界の患者に貢献を果たす



国民皆保険の維持・発展



② 「レギュラトリーサイエンス」

それを展開し、正しい評価をする

※医療を「メリット」と「デメリット」の観点から評価・予測する方法を研究し、社会生活との調和の上で、最も望ましい形に調整 (Regulate) すること

③ 絶対的価値観の訴求

多様性を重んじつつもぶれることのない価値観に基づく提案を進める

④ 医療は強力な安全保障

命を守るという究極の共通目的のための互恵関係を構築する



平成31年度経済産業省委託事業（医療国際展開推進事業） 日本の医療の強みを明らかにする調査 「日本における医療の強みガイダンス」

【総論】

日本の社会的・文化的背景で育まれた日本の医療は、品質・有効性・安全性が追及され、患者を親身になってケアする精神と姿勢の上に形成、公平性を持ちつつも最先端の医療を普及させた。

患者中心の精神を通底とした次の特徴を持つ：

- 患者中心を行動現地としたチーム医療：患者にとって最善の利益を考え行動するチーム体制
- スピード感のある医療：受診の待機日数、院内待機時間、検査の時間等、スピーディに医療
- サービスが提供ができる仕組み
- 均質化されたサービス：高い診療成績が示す高度な安全性と均質化
- 安定的な医療インフラが支えるアクセスの良さ：日本のどこでも患者が医療機関に容易にアクセスできること、そして不測の事態にも対応できる安心できる医療の展開
- 高い個のレベルとそれを支える行き届いた指導・教育体制
- 全国レベルで均てん化された医療：地域の医療格差の是正が図られ、標準的に高度な医療の受診が可能
- 更には、予防医療が整備され、患者が多様性のある最先端の医療サービスの受診が可能である。

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/iryout/outbound/activity/investigation_31_MEJ.html

日本の医療の強み；各論

診療方法分類	小分類
がんの診断・治療方法	がん腹腔/胸腔鏡下手術 内視鏡検査/治療 ～ESD/EMR/ポリペクトミー～ 肝がん 治療(RFA/ TACE) 乳がん 手術 (乳房切除/再建術) 強度変調放射線 治療(IMRT) 粒子線治療 ～ 重粒子線/陽子線治療 ～ がん治療の3大療法と緩和ケア、がんゲノム医療 がん検査(CT/MRI/PET)
循環器 (心臓・脳) の診断・治療	PCI/ PTCA・冠動脈バイパス術(CABG) カテーテルアブレーション 弁膜症 手術(MICS/手術支援ロボット/TAVI) 大動脈ステントグラフト内挿術 カテーテル検査(IVUS/ OFDI) 脳動脈瘤クリッピング/コイル 塞栓術
整形外科 の治療	腰部 脊柱管 狭窄症の低侵襲除圧術/除圧固定術 人工関節置換術 (膝関節/股関節) 自家培養軟骨 移植術 (スポーツ膝治療)
眼科の治療	硝子体 手術 (重度の 糖尿病 網膜症の治療)、白内障 治療 (多焦点 眼内 レンズ)
リハビリテーション	リハビリテーション
人間ドック	人間ドック

平成31年度経済産業省委託事業（医療国際展開推進事業）

『日本の医療の強み』調査 評価委員会

施設・団体名	役職名	氏名
国立研究開発法人 国立国際医療研究センター	理事長	國土 典宏 様 (座長)
一般社団法人 日本病院会	会長	相澤 孝夫 様
公益社団法人 日本医師会	副会長	今村 聡 様
学校法人 慶應義塾 慶應義塾大学病院	病院長	北川 雄光 様
国立大学法人 東京大学 東京大学医学部附属病院	病院長	瀬戸 泰之 様
独立行政法人 医薬品医療機器総合機構	理事長	藤原 康弘 様
学校法人 藤田学園 藤田医科大学病院	理事長	星長 清隆 様
日本医学会	会長	門田 守人 様
国立大学病院長会議	会長	山本 修一 様

厚生労働省 大臣官房審議官 (オブザーバー)	迫井 正深 様
内閣官房 健康・医療戦略室 次長 (オブザーバー)	森田 弘一 様